

群 教 ゼ	J01 - 01
	平14.206集

自分と同じように友だちを大切に 思う児童を育てる人権教育の工夫

学級活動「自分・友だちを知ろう そして好きになろう」と
道徳授業「大切にしよう 自分も友だちも」を通して

特別研修員 板橋 均

《研究の概要》

本研究は、学級活動と道徳の時間を関連させて、自分と同じように友だちを大切に思う児童を育てる人権教育の工夫について実践的に研究したものである。

具体的には、学級活動 において「自尊感情」を高める活動、学級活動 において「他尊感情」を高める活動と道徳の時間における自分と同じように友だちを大切に思う気持ち「共尊感情」を高める学習を関連させて行った。

【キーワード：人権教育 小学校 学級活動 道徳 自己の確立 共尊感情】

主題設定の理由

人は、自分と出会い、自分に気づき自分を好きになることを通して自分を価値ある存在として肯定的に受容することができる。そして、「自分が好き」という感情、自尊感情を高めることで、他尊感情も高まっていくと考えられる。自分を好きだからこそ他者も大切にできる。他者をもまたかけがえのない大切な存在として知ることができるのである。自己を肯定的に、自信を持って、価値ある存在であると感じることができれば、まわりの人にもプラスに反映していくと考えられる。そして、まわりの人との関わりの中で存在価値を感じることができれば、自分を再認識することになり、利己主義や自己中心に陥ることにはならないと考える。

つまり、自らの「生」が他の「生」との関わりの中でより豊かになっていくのである。学齢期の早い段階から「自尊感情」「他尊感情」「共尊感情」を育てること、円滑な人間関係やコミュニケーションのあり方をきちんと学習していくことが必要であると考えられる。

こうした学習をしていくことが、ひいては個性・生活習慣・社会的立場・文化・民族・国籍などの違いを、あるがままに受け入れて、一人一人を尊重できる人の育成につながるのではないかと考える。

本学級（小学校4年生 女子15名、男子13名）は、明るく元気で、素直な児童が多いが、人間関係がやや希薄で他者に対しての関心が低い。仲間意識も弱く、人間関係が狭いことなどが挙げられる。

具体的には、給食を床にこぼして困っている子がいても手を貸してあげられない。プリント等が配布されても欠席の子の机の上に、置きっぱなしにしておくなど無関心さも目立つ。こうした原因は、自分のことで精一杯というところもあるが、自分さえよければいい、他人のことは関係ないという考え方が多分にあると思われる。

そこで、「自尊感情」・「他尊感情」・「共尊感情」を育てる活動を繰り返し学習の中に取り入れていくことで、自分の存在の大切さに気づき、友だちも同じように大切な存在であることを理解し、自分と同じように友だちを大切に思う児童の育成ができるであろうと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

学級活動や自作の道徳授業を通して、「自己理解・自尊感情」、「他者理解・他尊感情」、「相互理解・共尊感情」を高める活動を繰り返し学習の中に取り入れていくことで、一人一人がみんな大切なかけがえのない存在であることを理解し、自分と同じように友だちを大切に思う児童を育てることができることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

以下の見通し1～3をもとに実践を行えば、一人一人がみんな大切なかけがえのない存在であることを理解し、自分と同じように友だちを大切に思う児童を育てることができるであろう。

- 1 学級活動 において、自分を見つめ直すアクティビティーを子どもたちの実態に合わせて工夫して行うことで、子どもたちは改めて自分の良さ知り、自分の価値を認め、自分が好きだと感じ、自尊感情が高まるであろう。
- 2 学級活動 において、友だちを見つめ直すアクティビティーを子どもたちの実態に合わせて工夫して行うことで、子どもたちは改めて友だちを知り、友だちの良さを見つけたり、自分と友だちの共通点を見つけたりし、友だちを好きになり、友だちを認め、受け入れる他尊感情が高まるであろう。
- 3 道徳の時間において、学級の子どもの保護者にゲスト・ティーチャーとして授業に参加してもらい、自分たちがどれだけ大切な存在として生まれ、そして今があるかを語ってもらう場面を取り入れた「大切にしよう 自分も友だちも」を行う。これにより、子どもたちは自分の尊さをさらに深く感じ取り、同じように友だちの尊さを理解し、自分と同じように友だちも大切に思う気持ち「共尊感情」が高まるであろう。

研究の内容

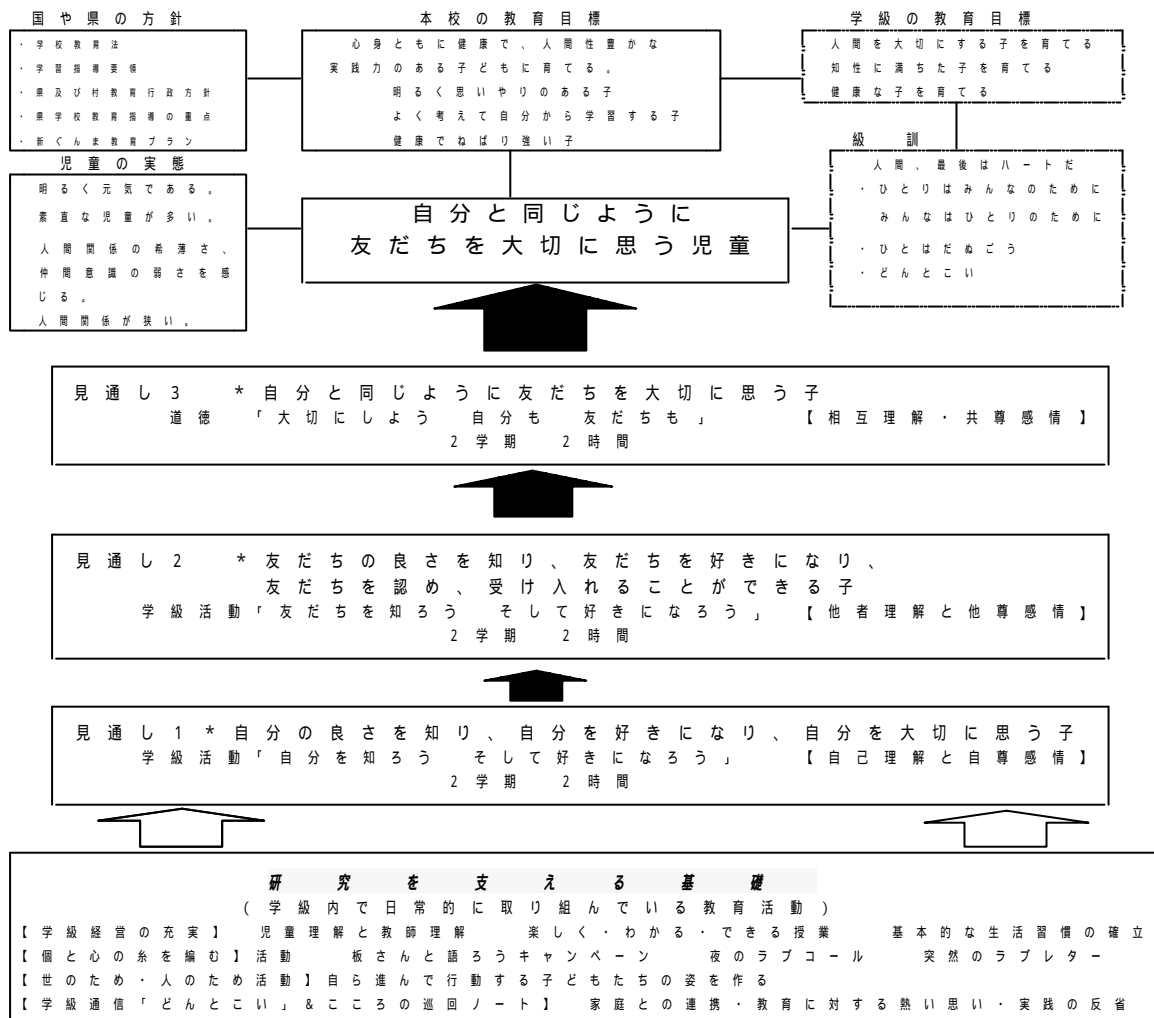
1 基本的な考え方

(1) 人権教育への視点

人権は、誰もがもっている、人間としての幸せを求めて生きる権利である。今の「人権教育」の多くは、いわゆる弱者に対してそのような権利の保障を求めて組み込まれているように感じる。それは当然のことであるが、それだけでよいのだろうかと思う。人権教育と聞いて、どんな授業を思い浮かべるだろうかと考えたとき、多くは、「差別 対 被差別」の構図で組み立てられた授業を思い浮かべるのではないかと思う。ある差別事象を取り上げて解説した後に、「どう思いますか」と問う型の授業である。すると、「差別は悪い・差別をやめよう」という結論が出る。たしかに、この型の授業は「人権教育」として必要であると思う。しかし、この型の授業だけでは「人権教育」として十分でないように思う。なぜかという、自分の幸せのために「人権教育」を学んでいるという視点が落ちているからである。権力者とそうでない者、差別する側と差別される側という二重構造を強調することだけでは、いつまでたっても本来的な人権は根付かないのではないかと考える。いじめっ子・いじめられっ子の関係も立場が逆転していくことがよくある。また、過去の不幸、他人の不幸を見せられれば見せられるほど、「生きるって辛いことなんだなあ」と真面目な子ほど感じとるのではないかと思う。そうした一方、

「わたしには関係ない、見て見ぬふりをするのが一番楽なんだ」という意識がはびこっていき、少しも自分自身に戻っていかないと考える。それでは、どうすればよいのかと考えたとき、『子どもたちに自分の「良さ」「大切さ」を自覚させる』ことが重要であると思う。なぜなら、自分の「良さ」「大切さ」を自覚することは、生きる希望と勇気を獲得し、他者の尊さの理解にもつながると考えるからである。これを基盤に人権教育を進めていきたいと考える。

(2) 研究における全体構想



(3) 自分と同じように友だちを大切に思う児童とは

自分なりの考えを持ち、その上で相手の考えや立場を尊重することができる。偏見や差別をしない。自分が友だちを大切にしている実感や友だちから自分が大切にされているという実感を持てる子である。

(4) 学級活動 「自分を知ろう そして好きになろう」とは、「自己理解・自尊感情」を重点に学ぶプログラムである。2学期に実施（ア：1時間、イ：1時間）

ア 「良いとこみつけた」 イ 輪になって話そう「自分発見」

(5) 学級活動 「友だちを知ろう そして好きになろう」とは、「他者理解・他尊感情」を重点に学ぶプログラムである。2学期に実施（ア：1時間、イ：1時間）

ア 「そこが同じ・そこがちがう」 イ 「友だち発見」

(6) 道徳授業「大切にしよう 自分も友だちも」では、事前に保護者の方に、子どもたちの

生まれた頃の話をして「 の知らない の話」として、書いていただき、当日は授業の前半部分で5名の保護者の方に、子どもたちの幼い頃のエピソードを交えながら、大切に育ててきたこと、ここにいるみんなが同じように大切な存在であること、誰とでも分け隔てなく仲良く助け合ってほしいことなどの話をしてもらう。

ここでは、「相互理解・共尊感情」に重点を置く。＊2学期（2時間連続）

2 実践の概要及び結果と考察

検証にあたっては、抽出児童の様子、学級活動プリント、道徳プリント、ふり返しカードを中心に挙げる。

抽出児 A 子は「まじめでおとなしく、交友関係は広いとは言えない児童で、自分に対してあまり自信を持ってないでいた児童である。」

抽出児 B 男は「勉強・運動能力に優れ、活発で前向きな児童であるが、やや自己中心的な面がみられる児童である。」

相対する2人を抽出児として、心の変容を追った。

(1) 自分の良さを知り、自分を好きになり、自分を大切に思うことができたか（見通し1）

ア 実践の概要

学級活動『自分を知ろう そして好きになろう』では、2つのアクティビティを行った。

授業のはじめに、自分とは、「友だちが知っている自分」「自分だけが知っている自分」「だれも知らない自分」の3つがあることを確認した。

1つ目のアクティビティ「良いところみつけた」では、「友だちの知っている自分」から自分を知ることを行った。1人につき、良いところ1つずつワークシートに記入していった。この活動を行うにあたって、工夫した点は、書いた子の名前を明記させたこと、記入する時間を1分間に区切ったこと、できるだけ変化に富んだ内容を書くように助言したことである。

2つ目のアクティビティ「輪になって話そう 自分発見」では、「自分だけが知っている自分」ということを意識しながら、自分の価値について考え、それを声に出して発表した。自分発見のために、自分の価値を認めよう。自分のきらいなところを認め、改めよう。自分の目標をしっかりと考えよう。自分をほめよう。この4つの観点で作成したワークシートを活用した。

また、「なぜ、自分のことを知り、自分のことを大切に思う気持ちが大切なのか」についても話し合った。

イ 結果と考察

「良いところみつけた」では、書いた子の名前を明記することで、無責任な内容を書くことがなく、「 さんは、私のことをこのように見ていてくれたんだ」と強く実感できた。

1分間という時間で区切ったことで、子どもたちは集中して取り組み、授業にテンポとリズムが生まれた。また、随時助言を与えたことで、子どもたちは、その子の良いところは何か、全神経を集中させて見つけていた。全員分書くことは、大変な作業であったが、いやがらず、喜々として取り組んだ。

「輪になって話そう 自分発見」では、生活班4人で行うことで、人前での発表の苦手な子も安心して取り組んでいた。読む人は「魔法のマイク」を持って、発表し、マイクを持った人以外はしゃべらないでしっかり人の話を聞くというルールを守り、それぞれがしっかり友だちの発表を聞くことができた。全員の発表が終わったところで、一人ずつ良いところ、努力していることについて認め合い、お互いに良いところをほめ合い、友だちに認められることで自分自身の良さ、自分の価値を感じとった。

資料1（活動後のふり返し）から、クラス全体として、自分を大切に思う気持ちが高まった

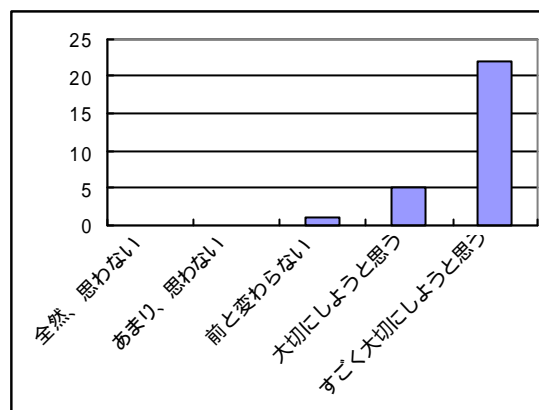
と考えられる。この活動を通して、明るい自分、責任感の強い自分、友だちに優しい自分、笑顔が良い自分など、自分の良さを十分に感じることができたからだと考える。また、この活動に対して、子どもたちは新たな自分発見に積極的に取り組み、明るい笑顔があふれていた。28名中22名（約80%）がそうした喜びに対して、すごく楽しかったと答えた。これは、いろいろな角度から自分について問われることによって、日頃考えない自分に気づくことができたからだと考える。それも、否定的な「だめ」な自分ではなく肯定的な価値ある自分だったからだと考える。

資料2は、「自分を大切に思うこと」についての主な意見である。

ここにある意見からも、子どもたちは、自分が他にはない大切な存在であることを感じたと考える。

資料3・資料4は抽出児のふり返しカードである。気づき方、感じ方にちがいはあるが、2人とも自分の良さに気がつき、自分を好きだという気持ちを持てたことがわかる。

資料1 「自分を大切にしようと思うか」



資料2 「自分のことを知り、自分のことを大切に思う気持ちがどうして大切なのか」

- ・自分というものは一人しかいないから。
- ・自分には他にない良さがあるから大切だと思う。
- ・人にはできないことが絶対に1つはあるから。
- ・自分のいいところを自分でわかっていれば、もっと友だちを大切にできると思うから。
- ・今の自分を大切にしたいから。
- ・大切さがわかれば、自分を好きになれるから。

資料3 「A子のふり返しカード」

「自分を知ろう そして好きになろう」で、すごく自分を知れて、うれしかった。また、こういうのをやってみたいと思った。

わたしには、いいところがいっぱいあるんだなと思いました。今度は、友だちのいいところをいっぱい見つけ出し、自分のいいところもいっぱい増やしたいと思いました。

「そして、好きになろう」は、本当に自分を好きになれたかもしれない。

資料4 「B男のふり返しカード」

自分のことを思ってくれる人がいっぱいいるんだなと思った。

これからもいろいろ良いところを見つけたいです。他の人の良いところもいっぱいあるんだなと思った。

ぼくは、「自分の良いところをみつけた」を見て、いろいろ良いところがあったうれしかった。だから、自分の良いところを増やして、みんなにもっと知ってもらいたいです。

以上のことから、子どもたちは、自分の良さを知り、自分を好きになり、自分を大切に思うことができた。また、友だちから大切にされていると実感できた。また、友だちから大切にされていると実感できた。

(2) 友だちの良さを知り、友だちを好きになり、友だちを認め、受け入れることができたか (見通し2)

ア 実践の概要

学級活動『友だちを知ろう そして好きになろう』では、2つのアクティビティーを行った。

1つ目のアクティビティー「そこが同じ・そこがちがう」では、生活班の4人で、4人全員が違っていることを見つけ、見つかったらカードに記入し全員で「そうそう！そこがちがう」

とかけ声をかけた。次に4人全員が同じところを見つけ、見つかったらカードに記入し、「そうそう！そこが同じ」とかけ声をかけた。友だちと自分の共通点に目を向けさせたかったので、「そこが同じ」を後に行った。

2つ目のアクティビティー「友だち発見」では、インタビュー形式にして10の質問を書いたワークシートを作成し、それぞれ当てはまる子をさがす活動を行った。表面的なことだけでなく、心の中を知る質問を多く取り入れた。また、「なぜ、友だちのことを知り、友だちのことを大切に思う気持ちが大切なのか」についても話し合った。

イ 結果と考察

「そこが同じ・そこがちがう」では、活動後の感想に、「友だちと同じところがたくさんあってとてもうれしかった。」「みんなちがう良さがあるんだなと思った。」「友だち発見をして前よりも友だちが好きになった」などが書かれていた。自分と友だちとの一致するところを見つけることで、親しみを感じたり、共感したり、仲間意識が強くなったと考えられる。また、ちがいを見つけることで、友だちの考えていることが良くわかり、ちがっているところがあるからおもしろいという、ちがいの良さにも気づくことができた。

「友だち発見」では、活動後の感想に、「友だち発見をやって、いろんな人にインタビューをして、いろいろな質問ができて、いろいろわかってよかった。またやってみたい。」「みんなすごいと思った。」などが書かれていた。

子どもたちの交流の様子を見て、友だちとの楽しいコミュニケーションを持ちながら、発見活動を行うことで、友だちについて多くのことを知り、友だちの良さや個性を認め、受け入れることができたと考える。

資料5（活動後のふり返り）から、「すごく仲良くしようと思う」という意見からも、友だちの良さや個性を認め、受け入れる気持ちが高まったことがわかる。

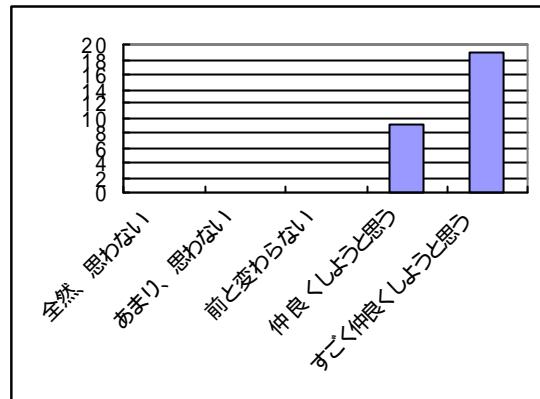
また、この活動に対しては、28名中25名（約90%）が、友だちのことを改めて見つめ、友だちの良さを発見することはすごく楽しかったと答えた。

資料6は「友だちのことを知り友だちのことを大切に思う気持ちがなぜ大切なのか」の問いに対しての主な意見である。「友だちもいっぱい良いところがある。」「友だちを大切にすることは、自分も大切にされること」からも友だちを認め、受け入れていることがわかる。

資料7・資料8の2人のふり返りカードからA子もB男も友だちのことを良くわかることを喜びであると感じ、一人一人に個性があることを認めている。

A子は、活動後のふり返りで、「前よりも友だちが好きになった」B男は「前よりも友だちのことがすごく好きになった」と答えた。

資料5 「友だちと仲良くしようと思うか」



資料6

- ・大切にすれば、ずっと大人まで友だちでいられると思うから。
- ・友だちを良く知って、好きになると友だちが増えるから。
- ・友だちもいっぱい良いところがあるから。
- ・友だちを大切にすることは、自分も大切にされることだから。

以上のことから、学級活動 を行うことで、子どもたちは友だちを知り、良さを発見し、友だちを好きになり、友だちのいろいろな考え方や個性を認め、受け入れることができたと考える。

(3) 自分と同じように友だちを大切にしようと思うことができたか(見通し3)

ア 実践の概要

道徳授業「大切にしよう 自分も友だちも」では、保護者である5名のお母さん方に、ゲスト・ティーチャーとして授業に参加してもらい、それぞれの子どもの生まれたときの話、これからどんな人になってもらいたいか、友だちも自分と同じように大切にしてほしい等の話をしてもらった。

また、全員の保護者の方に自分の子どもの生まれたときからの話を書いていただいた「 の知らない の話」を子どもたちにプレゼントした。

親からの愛情をもとに、一人一人が同じように大切なかけがえのない存在であるということ深く感じとり、自分と同じように友だちを大切に思う気持ちについて学習した。

イ 結果と考察

授業の前半部分でゲスト・ティーチャーとして参加してもらった保護者5名の方の話に、子どもたちは真剣に耳を傾け、聴き入っていた。

また、直接話を聞けなかった子どもたちも「 の知らない の話」を何度も何度も読み返していた。授業が終わった後、教師のところに、「先生、 くんのお母さんの話に、くんも、お母さんたちにすごく愛されているなと思った。」「 くんが生まれたときの話で、 くんがとった行動を聞いたら、泣けてきちゃった。」などの感想を言いに来た子ども数名いた。

また、授業の後半の「大切な友だちをお金にするといくらか?」という発問に、子どもたちは、「お金にはかえられない」「いくらお金があっても人間の価値とは比べられない。」「自分も友だちも一人しかいないのになんでお金にできるのか」「一人の人間は、世界にたった一人しかいないんだから、お金にかえられない。」と怒りにも近い真剣な表情で反論してきた。

資料9・資料10の2人のふり返りカードから、A子の「友だちを大切にするという事は、自分を大切にできるということ」

B男の「友だちも自分と同じ人間で仲間」という言葉は、表現にこそちがいはあるが、A子もB男も自分と友だちを重ね合わせて考

資料7 「A子のふり返りカード」

友だちのことを前より、より良く知った。「友だちが好き」というところが、みんな同じだったので良かった。「最近、だれかに、ありがとうと言われた人」では、 ちゃんでした。

ちゃんは優しいと思いました。「最近、何かできるようになった人」、 ちゃんでした。クローラーができるようになってよかったなと思いました。「大きくなったら、何になるか決めている人」では、 ちゃんでした。夢があっていいなと思いました。この人たちは、特に心に残った人たちです。みんなの好きなところがわかった。みんな、全員が個性があつていいなと思った。また、やってみたいと思いました。

資料8 「B男のふり返りカード」

みんなと同じところがあったり、ちがうところがあったりして、不思議だなと思った。 ちゃんが歌手になりたいなんて、ぼくは知らなかった。やっぱり友だちは、いろいろな考え方をしているんだなと思った。前よりも、友だちのことがわかるようになって良かった。

資料9 「A子のふり返りカード」

この授業をやって良かったです。友だちの良さや自分のことを大切にすること、それが一番友だちが喜ぶことだと思います。友だちを大切にすること、自分を大切にできるということ。だから、いろいろな友だちをつくって、いろいろな友だちと仲良くしたいです。

え、感じていることがわかる。

これは、見通し1から見通し2、見通し3と学習してきたことで、自分そして友だちの大切さを十分に理解し、自分と同じように友だちを大切に思う気持ちが表れているものと考えられる。

また、他の子どもたちのふり返りカードには、次のように書かれていた。

・「自分も友だちも、大切な存在なんだと思いました。この授業をやって、生まれてきて良かったと思いました。」

・「わたしもみんなもお父さんやお母さんにすごく大事に育てられて幸せだなあと思った。わたしはこれからも友だちをすごく大事にしていきたい。」

・「この授業をやって、友だちを大切にしようという気持ちが、いっぱいになりました。」

資料11（授業後のふり返り）か

ら、27人中25名（約93%）が自分と同じように友だちをすごく大切にしようと思うと答えた。

以上のことから、自分も友だちも同じように大切にしようという気持ちが高まったと考える。

学級活動、と道徳の授業を終え、約1ヶ月の間子どもたちの様子を見ているが、以前に比べて、教室全体の雰囲気さらに明るくなり、子どもたち同士の交流が男女を問わず活発になった。直接自分の得にならないことでも、進んで行く姿も増えた。班活動や当番活動などでも困っている子がいると自然に手を貸してあげられるようになった。

以前見られた「自分さえよければいい」「他人のことは関係ない」という姿はほとんど見られなくなった。

楽しく関わり合う中に、「自分と同じように友だちを大切にする」という姿がクラス全体にどんどん広がってきているように感じられる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

学級活動として行った「自分を知ろうそして好きになろう」は、友だちが知っている自分、自分だけが知っている自分を手がかりに、子どもたちが自己を真剣に見つめ、自分の良さを知り、自分を好きになり、そして自分を大切に思う気持ちを高めるのに有効であった。

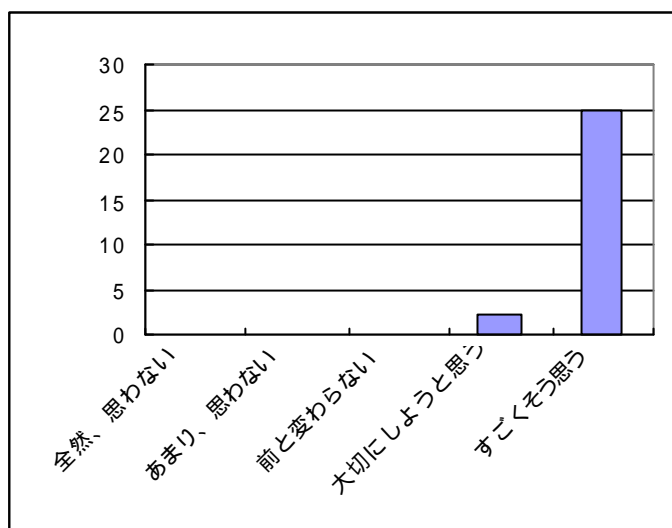
学級活動として行った「友だちを知ろうそして好きになろう」は、友だちと楽しくコミュニケーションをとりながら、新しい発見の喜びを十分に感じ、友だちの良さを知り、友だちを好きになり、友だちを認め、受け入れる気持ちを高めるのに有効であった。

道徳授業「大切にしよう自分も友だちも」で、保護者の方にゲスト・ティーチャーとして

資料10 「B男のふり返りカード」

ぼくは、どんどんいろいろな人を友だちにして、大切にしたいです。友だちも自分と同じ人間で仲間。この授業をやって、いろいろなことがわかって良かったなと思った。

資料11 「自分と同じように友だちを大切にしようと思うか」



参加してもらったことは、その話を自分自身と重ねながら聴き、一人一人がみんな大切なかけがえのない存在であることを深く理解し、自分と同じように友だちを大切に思う気持ちを高めるのに有効であった。

今回の学習を通して、子ども同士の、子どもと教師の、子どもと保護者の、保護者と教師の信頼関係がさらに強くなった。

2 今後の課題

「個」にこだわり「個」を大切にすること。これが人権教育の根本であると考えます。個と心の糸を編むことを大切にしながら、全教育活動の中で、「自尊感情」「他尊感情」「共尊感情」を高めていく学習を繰り返し子どもたちの人間関係づくりの中に取り入れていくことが今後も必要であると考えます。また、「だれも知らない自分」＝「自分の持つ無限の可能性」をいかに知るか、それをどんな形で気づかせていくかも今後の重要な課題である。

<主な参考文献>

- ・ Simon Fisher、David Hicks 著 『WORLD STUDIES』 国際理解教育センター（ERIC）
- ・ 深澤 久 著 『命の授業』 明治図書
- ・ 深澤 久 編 『道徳授業を楽しく』 明治図書
- ・ 國分 康孝 編 『エンカウンターで授業が変わる・PART 2』 図書文化社